

特集

待望のカーフェリー 気仙沼・大島へ月末にも就航



今月末ごろの就航を目指すカーフェリー「ドリームのうみ」=19日午前8時ごろ、気仙沼港

東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市の離島・大島と同市の本土を結ぶ大島航路に待望のカーフェリーが復活する。大島汽船(白幡昇一社長)が、広島県江田島市から「ドリームのうみ」(397トン)を借り受け19日、気仙沼港に到着した。

同社はカーフェリー2隻を浦の浜(大島)―気仙沼商港間で運航していたが、津波で旅客船5隻とともに陸に打ち上げられたり、沈没したりして運航できなくなった。

代替りのフェリーを探し、江田島市営で同市能美町―広島港間を行き来していた「ドリームのうみ」を半年間、無償で借

りられることになった。

同船は全長59.3メートル。乗客300人、乗用車20台の乗船が可能。今後、航路調査や操船の習熟訓練を行い、今月末ごろ、浦の浜―旅客船乗り場(エースポート)間での就航を目指す。

白幡社長は「カーフェリーの運航再開で工事車両や自家用車の行き来が可能になる。大島の本格的な復興につながってほしい」と期待している。

2011年04月20日水曜日